

会 議 記 録			
会議の名称	広報広聴会議		会議場所 全員協議会室
			担当職員 加藤 太郎
日 時	令和4年5月30日（月曜日）		開 議 午後2時50分
			閉 議 午後3時30分
出席委員	◎平本 ○三上（広報部会長） ○赤坂（広聴部会長） 富谷 大塚 木村 三宅 松山 小川		
執行機関 出席者			
事務局 出席者	野澤副課長兼総務係長、加藤副課長兼議事調査係長、小野主任、山内主事		
傍 聴	可	市民0名	報道関係者0名 議員0名（-）

会 議 の 概 要

14:50

1 開 議

[平本委員長 開議]

[事務局副課長兼議事調査係長 日程説明]

2 案 件

(1) 広報部会活動

<三上副会長（広報部会長）>

議会だよりNo.193（6月議会号）の編集作業に取りかかり、7月31日発行、8月1日全戸配布を予定している。内容については、表紙、2ページは6月議会概要、3ページは広聴活動の報告、4、5ページは特集ページで詳細は検討中、6ページ以降は従来どおりで考えている。皆さんから前号の感想や市民の声など意見をいただきたいが、特になければ広報部会で編集作業を進めていくので了承願う。7月下旬の校了前にレターケースに最終原稿を入れるので確認いただきたい。次に現在、議会基本条例の検証及び見直しや議会活性化の議論がされており、各党派で意見をまとめられたが、広報活動に係る内容が幾つかあるので、広報部会としても検討を重ねてきた。資料のとおり3項目が挙がっており、1点目は議長記者会見で使用するバックボードの図柄を変えてはどうかとの意見であるが、特に旬の情報発信や議会として取り組んでいることをアピールするようなものがあったとしてもよいのではないか。1枚5万円程度の作成費用もかかるので、何回も作り変えることはできず、今年度にそのような予算は組んでいない。例えば、京都府議会では必要に応じてバックボードに写真や文字を貼っているが、そのような形でもよいので何か工夫ができないか。使用頻度もそれほど多くなく、新たに作成するよりは、予算をかけずに効果的にアピールできないかと思っている。プラごみゼロの取組など議会が市と共同してやっていること、LGBTQ+について政策提言していることなどは、議会としてアピールできることがある。議長が記者会見している前方に、わがまちトークやこども議会の告知を三角柱でテロップ的に立てるなど、何かやっていければよいと考えている。デザインや手法などを広報部会や広報広聴会議で検討して、議会運営委員会に資料として出していきたい。次にYouTube配信についてであるが、これは常任委員会を動画配信すべきとの意見が多数出ているものである。YouTube配信をすとなれば、固定する三脚やマイクなどの附属品が別に必要と

なるが、技術的にはタブレット端末自体が優れているので、タブレット端末内蔵カメラで撮影し、iMovieのような動画編集アプリで、ある程度の動画編集ができる。わざわざ凝ったものを事務局が労力をかけて編集するようではいけないし、広報広聴会議の委員でできるようなこととして、動画の初めに日時や会議名、議題、出席委員、出席理事者などを表示し、後は配信するぐらいでやってみてはどうか。複雑な編集は必要ないと考えており、前回の広報部会を撮影し編集した動画を後ほど見ていただこうと思っている。録画配信とライブ配信のどちらもやればよいとの意見や、まずは録画配信から始めて、動画編集から配信まで安定的にできるようになれば、ライブでも実施できるのではとの意見もあった。そのようなことも含めて広報広聴会議で考えをまとめた上で、議会運営委員会に実施する方向で諮りたいと思っている。YouTube配信に係る運用規程等についても提示する必要があるが、昨年からの検討項目であるので、できる限り早く広報広聴会議で結論を出していきたい。最後に、議会だよりについては、オールカラー化や発行回数の増、ページ数の増減など様々な意見が出ている。表紙についても、この間ずっと週刊誌調の表紙を採用して、他にない目を引くスタイルとして注目されており、地方議会の取組を発信する全国誌にも紹介され、一定の評価も受けている。また、QRコードを付けて動画に飛ばすことも画期的なことであり、デジタルコンテンツとのコラボを今後もやっていければよいと思う。実験的に議会だよりをコンビニや学校などに置いてもらうことも大いにやっていければよいと思う。広報部会の皆さんに頑張って高度な編集作業をしていただいているが、今後はどの議員が担当になっても編集作業ができるようにしていかなければならない。来期あたりの議員団研修会の講師として、広報広聴の研修会で講師をされている広報コンサルタントの芳野政明先生をお招きし、御教示いただいてもよいのではないかと提案したいと思っている。

<松山委員（広報副部長）>

三上副会長（広報部長）から広報部会で議論した内容が報告されたが、これらの取組については、広報広聴会議で議論を深めて合意形成を取り、できる限り早く議会運営委員会に提案したいと思っているので、協力願いたい。委員会のYouTube配信については、広報部会で議論をした内容を踏まえて事務局がイメージ動画を試作したので、タブレット端末で見ていただきたいと思う。

<平本委員長>

それでは、YouTube配信に係るイメージ動画を見たいと思う。

[イメージ動画の視聴]

<平本委員長>

御覧いただいたとおり、非常に簡素化された編集作業の中でこれだけの動画が作成できるようである。広報部会では委員会のYouTube配信を早く進めたいとの思いがあるので、広聴部会からもやっていけばよいとの意見がいただけるのであれば、広報広聴会議の合意形成が取れる。今後、運用等の詳細を詰めた上で議会運営委員会に諮っていきたいと思う。

<赤坂副委員長（広聴部長）>

以前から課題として議題に出ていたことであり、形は徐々に肉付けされていくと思うので、まずはスタートすることが大切である。動画の最初に会議内容の説明と最後に終了の合図さえあれば問題ないと思う。ぜひとも早く進めていただきたい。

<小川委員>

どのくらいチャンネル登録していただけるか分からないが、できることからやって

いけばよい。よい感じに動画を試作していただいているので、まずは試行として録画配信から進めてみてはどうか。

<平本委員長>

委員会のYouTube配信については、まずは録画配信からでもやっていきたいとの意見であるが、広報広聴会議の総意としてよいか。

—全員了—

<平本委員長>

委員会のYouTube配信に向けて、引き続き広報部会で運用等の詳細を詰めていただきたい。

<赤坂副委員長（広聴部会長）>

広聴部会では年間の事業計画を立てて活動していくので、バックボードに広聴の枠を設けて、事業の告知ポスターなどを貼らせていただき、時期に応じて貼り替えていきたいと考えている。広報部会から規格やデザイン的なことをアドバイスいただき、それをもとに考えて作っていきたい。

<三上副会長（広報部会長）>

よいと思う。旬の行事の告知などは、前面にテロップ的なものを置けば効果的ではないか。バックボードだけではなく、うまく見せる方法を広報部会で考えていきたい。

<平本委員長>

バックボードについては、議会として取り組んできた内容の周知やイベント性のあるものを部分的に貼りつけていくことを考えていきたい。また、イベント事などタイムリーな告知については、その都度交換できるように前面に出すことや、広聴部会の枠も考えていければよいと思う。

<三上副会長（広報部会長）>

みんなで考えていきたい。

<平本委員長>

両部会が連携して動いていきたいので、協力願う。

（２）広聴部会活動

<赤坂副委員長（広聴部会長）>

5月18日に、城下町の本町と柳町を中心に、今後の城下町のまちづくりについてインタビュー活動を行った。「走行する車が多く速度もあるので危険である」、「夜の時間帯は照明があまりなく危険である」、「銚蔵を亀岡祭以外で利用してはどうか」など、市民からたくさんの意見をいただいた。今回は城下町で活動したが、今後も環境、観光、農業、交通などテーマを決めて、他の地域や団体などに対して広聴活動を行うこととしており、基本的には議会期間以外に活動していきたい。また、社会福祉協議会のサークルから「インタビューしてほしい」との声があるので、7～8月頃に実施したいと思っており、10～11月頃には、南桑中学校の生徒との意見交換会も予定している。それぞれの事業計画や詳細な内容が決まれば、広報広聴会議に報告して議会運営委員会に上げていきたいと考えている。今後、18期議員になってもすぐに効果的な広聴活動をしていきたいので、資料に示したように広聴活動の年間活動スケジュールを形にしておきたい。バックボードを活用した広聴活動の告知については、広聴部会で案を出した上で、広報部会に作ってもらいたいが、いろいろと考えを膨らませて工夫できることもあると思う。

<平本委員長>

広報部会から意見はあるか。

<三上副会長（広報部会長）>

次号の議会だよりは、3ページを広聴活動の記事とするので、先日実施された城下町でのインタビューや今後の広聴活動の予定などを掲載してはどうかと思う。広報部会で広聴活動ページの担当が決まれば、広聴部会と協力して編集作業を進めていくので、よろしく願います。

<平本委員長>

インタビューでこのような意見があったと掲載するだけでは面白味がないので、記事として読み進められるように、広聴部会と打ち合わせして構成を練っていただき、よい方策を提案いただきたい。

3 その他

<赤坂副委員長（広聴部会長）>

議会だよりについては、予算が限られ増刷が難しい状況であるが、自治会ではたくさん部数が余っているようである。各自治会が配り終わった後に広報広聴会議で手分けして回収し、少しでも多くの方に見てもらうためにそれを学校やコンビニなどに置いてはどうか。

<小川委員>

自治会で議会だよりが余っていることは、以前から気になっていた。中学校や高校に置いてほしいと思う。自治会への配布部数はどうなっているのか。

<事務局主任>

自治会を通しての全戸配布の部数については、自治防災課が各自治会と調整して決定しており、それに基づいて他の広報物と同様に、議会だよりを各自治会へ配布している。

<小川委員>

議会だよりについては、行政視察用に保存する必要があると思うが、いろいろところで目に触れていただき、有効活用していただきたい。

<大塚委員>

亀岡地区のある自治会、200戸くらいのところであるが、会長が変わって市の広報物を自治会から各戸へ配布しないところがあり、必要であれば取りに来るようにと言っているようである。そのようなところが出てきており、その対応を自治防災課が調整しているようであるが、きっちりやったほうがよいと思う。

<事務局主任>

各自治会への配布部数については、個別に決めているのではなくて、市の広報物を全戸に配布できるように、自治防災課が各自治会と協議する中で決定されている。

<大塚委員>

自治会が配らずに置いている実態がある。

<事務局主任>

その件については、自治防災課に確認、協議いただきたい。

<平本委員長>

議会だよりの有効活用として、多くの人に手に取っていただきたいとの思いであるが、広報広聴会議で決定できないので、議会運営委員会で判断を諮っていただくことでどうか。

<木村委員>

余っているものを自治会に取りに行行って回収するだけであり、大層に考える必要はない。自治会で捨ててしまうものを取りに行くだけである。

<平本委員長>

議会運営委員会へは報告か協議か、どちらの形がよいのか。

<事務局副課長兼議事調査係長>

基本的には広報広聴会議で決定して取り組んでいただくと考えるが、活動する内容に応じて議会運営委員会に諮ること、あるいは報告や確認いただくことは必要であるとする。

<平本委員長>

広報広聴会議の総意としては、自治会で余っている議会だよりを回収して有効活用するために、新たな配布先に置きたいと議会運営委員会に報告することでよい。

<三上副会長（広報部会長）>

余っているものはこちらから取りに行くと有効活用すればよいと思うが、余っているからすぐに取りに行くのではなく、まずはどの程度余っているのかをリサーチする必要がある。先ほどの話は重大で、全戸配布すべしで配布しているものが配布されていない。それは余っているのではなく、自治会と意思疎通して自治会経由で配ってもらえるようお願いしなければならない。その上で余っているのであれば、保存で残しておきたい部数以外は、自治会の合意を得て回収すればよい。

<平本委員長>

対応について若干の調整が必要であるが、配布物で無駄になるのであれば有効活用したいとの方向づけで皆さんのコンセンサスが得られたと思うので、そういったことで協議し調整していきたい。他に何かないか。

<三上副会長（広報部会長）>

赤坂副委員長（広聴部会長）から声をかけられたことであるが、広報広聴会議を例えば委員会にすればどうかとあった。一つの問題提起であるが、このことは大きな組織変更になるので、必要であれば議会運営委員会に提案して議会改革の中で議論していきたいと思う。今は広報広聴会議という形で活動しているが、委員会として活動することが、予算や活動の関係でどう違うのかがあまり分かっていない。そのような声をもらっているので、広報広聴会議で一度議論した中で、今と違う方向性にする必要があるのであれば、議会改革として挙げていけばよいのではないか。

<赤坂副委員長（広聴部会長）>

広報広聴は市民の意見を聞く一番大切な部分でもあり、議会活動の全てが広報広聴で成り立っていると言える。スムーズに広報広聴するためにも、予算を取って活動の幅を広げて、最終的には常任委員会でやっていけばよいと思っている。まちを知るには一番よいことであり、各委員会にも反映していき、議会の活性化にもつながると思うので、来期に向けて前向きに考えてみてはどうか。

<小川委員>

広報広聴は議会の中で、インプット・アウトプットといった一番大事なことである。ただし、広報広聴を発展させたいとの意思は皆一緒であると思うが、今の形態にした過去の経過を踏まえる必要があり、委員会化へのメリット・デメリットもあると思うので、そういったことを今後検討してもらえればよいと思う。慎重に進めるべきである。

<平本委員長>

広報広聴は議会の要であると思っており、小川議員がおっしゃったように、過去の経緯でこのような形態になっていることをしっかりと検証した上で、来期に向けた委員会化への是非について、議論の場を設けていきたいと思う。

散会 15:30